

第4章 地球環境問題からみる農林業保護の重要性

資源問題から環境問題の時代へ

○サミット、国連でも環境問題がテーマに

- ・日本は、世界から遅れること5年、1955年から高度成長が始まった。当時の成長は、重厚長大・エネルギーや資源を多く消費する産業が中心。→60年代末ローマクラブは、資源の枯渇を指摘。
- ・1973年、石油危機。1970年代の地球の制約は「環境問題<資源問題」。
- ・日本に限らず、大気汚染、水質汚濁等の環境問題が噴出。→しかし当時の環境問題は局所的。その問題に対して適当な対策を講ずれば、環境問題は解決できると考えられていた。
- ・1989年のアルシュ・サミット（先進国首脳会議）で、国際的な環境問題が大きな論題として取り上げられた。国連でも環境問題を正面から取り上げるような雰囲気。差し迫った状況に。

○増える二酸化炭素、失われゆく緑

- ・世界中で、環境問題という形となっているものは、次の5点。
①CO₂の増加と異常気象 ②オゾン層破壊 ③酸性雨 ④動植物の絶滅 ⑤モノカルチャー文化
- ・大変大きな問題になっているのはCO₂の増加問題。
EU：強く抑えよう 日本：「経済との両立」 ←国際的に非難を浴びている。
- ・化石燃料の大量消費だけでなく、森林破壊もCO₂の増加と関係がある。
- ・CO₂増加 → 温室効果により、平均気温の上昇 → 耕地の砂漠化・海水位の上昇 等
エネルギー多消費型の工業生産や近代技術、生活様式を基本的に反省する必要がある。

○天にはフロン、地に酸性雨

- ・フロンガスがオゾン層を破壊することにより、紫外線が増加し、人間の健康に被害があるのでは。
→できるだけ早く全廃・ほかのものに置き換える。
- 近代科学文明なるものに対する反省
→天然になかった物質をうかつにつくり出したことが、とんでもない環境問題を引き起こした。
- ・酸性雨は、特にドイツで深刻な問題に。PH4や3の酸性雨。酸性霧も多い。枯木。死の湖。

○乱開発で大量にすすむ種の絶滅

- ・動物もそうだが、植物の原種が失われる懸念。
- ・（農業に直接関係する点でいえば）植物の品種改良のためには、原種が必要。

森林地域の一部については今後一切手を加えない、完全な自然状態を維持し、原種の保存を。

モノカルチャーによる環境破壊（モノカルチャー：特定の一種類の農作物を栽培すること。単作化）

- ・モノカルチャー化は、過度の一次産品貿易の拡大を大きな原因としている。
- ・現在でも残るブラックアフリカの食糧問題は、モノカルチャー構造と結びついている。
→宗主国が植民地にモノカルチャー構造を押し付けた。独立後、それが大きな経済負担になった。
例：代替品の出現（マニラ麻→ナイロン、天然ゴム→人造ゴム） 食糧生産は弱いまま。
→すぐに作物の転換は不可能。地力の破壊も甚大。

ひとつの国の農業が過度にモノカルチャー化すると、自然破壊とともに、その国の国民の生活が破壊される。

- ・モノカルチャー化は、国単位でなく、地域という単位で見ること。
- ・経済効率からみる「比較生産性理論」は、モノカルチャーをつくることにもなる。

地球環境問題と農林業

○環境問題のグローバル化

- ・【過去】公害等、局所的な問題だった。 【現在】地球規模、広く深い国際的な関連の中で発生。
例：酸性雨・フロンガス・海洋汚染・象牙の箸等 理由：開発の拡大・交流の拡大

○地球環境保全は国際協力によるしかない

- ・×「南」の国々の破壊された自然の回復のために「北」の国が援助をする
○全ての国が環境保全に最高の重要性を与え、あらゆる政策的努力をそのために総動員すること

限られた地球の包摂力のなかで、最大限に環境を保全するために掲載活動を計画的に規制していかなければ、人類の生存そのものが成り立たない。国際協力は、そういう人間的理性にもとづく規制のために要求されている。

○環境保全と農林業の役割

- ・現在の環境問題に対処するためには、農林業が健全に維持されていることが大切。
日本の農林業を十分に強力に維持し、活性化していくことは、三重の意味で世界的な価値をもつ。
①地球上の緑の一部として機能している
②食糧輸出国の自然破壊を防止する
③他の国々、とくに途上国にとってひとつの指針を与える

時刻の農林業や自然の状況についても、世界的視野のなかで考え、政府は世界に対して責任を負えるような政策をとらなければならない。

エピローグ エコノミック・アニマルから環境先進国へ

○一次産品の過度の貿易は環境に悪影響

- ・農業従事者の高齢化、若年層の減少により、農業の衰退が加速。

一次産品貿易の必要以上の拡大は、環境に悪影響を与えることを大々的に主張し、環境保全を何よりも優先させて新しい世界の貿易秩序をつくる、そのもとで日本が環境維持のために必要な国境措置をとることをガットに公認させるべき。

そのうえで、10倍以上の新規参入者が確保できるような魅力を与えるだけの対策を。→？

○農林業を再生し、環境先進国へ

×エコノミック・アニマル：国際社会において、日本人が利己的に振る舞い、経済的利益ばかりを追求するさまを皮肉った呼び方。

○地球上の環境問題に最大の関心を払いつつ国際問題に対処するとともに、国内の農林業についてもその再生のために最大・最善の努力を傾注するような転換を。

